

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日
◇例会場
◇事務所

第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD



よいことのために手を取りあおう

第1703回例会 令和7年9月25日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。今年は月の2回目の例会の時は失敗学という事で、失敗の話をしていきます。今日は橋本ガバナー補佐の卓話もありますので、短くしたいと思います。

技術を進歩させた「三大失敗」タイトルはタコマ橋の崩壊です。要は結果をいろいろ調べた結果、技術的な進歩に役立ったという例です。本の抜粋ですので、読ませていただきます。

工学分野でよく知られた失敗に、技術を進歩させた「三大失敗」があります。タコマ橋の崩落、戦時標準船の沈没、コメット機の墜落です。

まず、タコマ橋とは、1940年にアメリカのシアトルの南につくられた長さ約1キロの橋です。この橋は、軽く、早く、安くを第一に考えてつくられました。しかし、できあがってみたいところ、風が吹くとずいぶん揺れて、どうにも危なっかしい。そこで、とにかく観測してみようということになり、風速計や温度計、映写機などをあちこちに置いて、風がくるのを待つことにしました。ある日の午前中にセットが終わったところ、午後には風が吹き出しました。そして、秒速19メートルの風が吹いたとき、橋はものの見事に落ちてしまったのです。

橋は落ちてしまいましたが、危険を察知していろいろと準備していたことから、この失敗は、橋の崩落について貴重な資料を残してくれました。わかったのは、横風による自励振動という、当時は未知の現象が起こったということでした。そこから、薄い板状の桁をつくるとねじりが起きて落ちてしまうので、ねじれない工夫が必要であることがわかり、さらに、風が吹くと薄い板の後ろに見えない渦ができるという、流体力学の知識にもつながりました。

そして忘れてはならないのが、アメリカがこの失敗について調査をただでなく、世界中に情報発信をして、今までつくった板状の吊り橋を全部箱構造に変えたことです。このおかげで、世界中の吊り橋が落ちにくい安全なものになりました。

また10月30日の親睦例会ですが、皆野のわかばに決まりましたので、よろしくお願い致します。

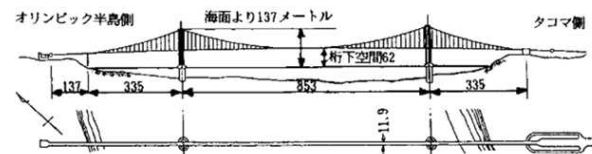


図2 タコマ橋の構造概要 [1]

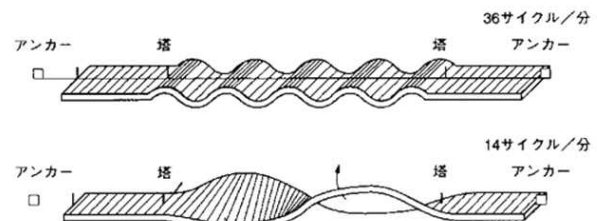
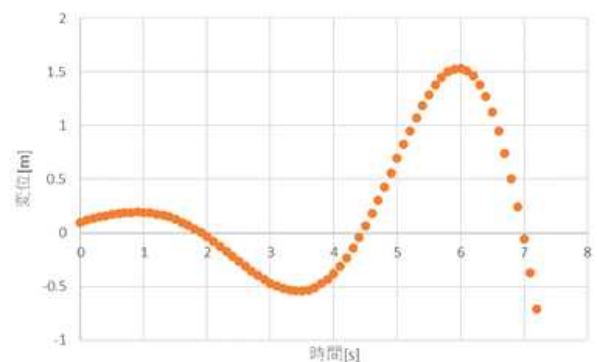


図3 タコマ橋の振動状況 [1]



【幹事報告】

山田 利明



1. 地区事務所より

- ①ガバナーノミニージェグネットの公表
- ②戦略計画立案ガイドならびに立案ファシリテーションガイド送付
- ③月信9月号

ニコニコボックス

♪先日は素敵なお花をありがとうございました。
高田 富康

出席率 75.0%

【委員会報告】



小埜 和也会員

先日出会5年未満の会員大正のセミナーに参加してきました。私は入会して1年ちょっとですが、難しい内容もありましたが、勉強になりました。4つのテストについての説明もありました。皆野長瀬ロータリークラブは小さいクラブですが、いろいろな知識を吸収したいと思います。

ガバナー補佐卓話

R I 第2570地区 第4グループ



ガバナー補佐 橋本 和行様
こんにちは。改めまして、2570地区第4グループガバナー補佐の橋本でございます。今年度1年間、よろしくお願い申し上げます。まずは、例会前に「補佐点検書類」の確認が無事に完了いたしましたことをご報告申し上げます。

さて、早くも新年度が始まりまして3か月が過ぎようとしています。皆野・長瀬ロータリークラブ様は畝会長のリーダーシップのもと、有意義なクラブ活動を過ごされていると思います。フランチスコ・アレツオR I 新会長も「良いことのために手お取り合おう」のスローガンはそのままにスタートいたしました。我々2570地区は坂口ガバナーの下、それぞれの地域のニーズに応えるべくロータリー活動を発展させて行きましょう。

2570地区の今年度の最大の目標は「クラブの活性化」です。私が思うのは、クラブの活性化は、まず個人の活性化から始まると思っています。私が岡部ロータリークラブへ入会した20年前の事です。そのころは、なぜかロータリーとはこういうものだと言われていた覚えがありません。バッジと小冊子、数枚の標語の紙はもらいました。その時代は先輩の背中を見て覚えることが当たり前だったのでしょうか。ただ一つ、自己研鑽の場だとは、よく聞かされていました。

勧誘されていたころは「誰でも入れるクラブではない」とか「推薦されたことは名誉な事なんだよ」とも言われました。初めて勧誘されたのは25年前ですが、その時の私には、ロータリーは敷居が高い、閉鎖的で高齢者の集まり、何をしているのか分からず、おまけに大金がかかる、のようにしか見えませんでした。正直、魅力的ではありませんでしたので、お断りしていました。似たような経験のある方も少なくはないと思います。それでも、例会を重ね、炉辺会合・奉仕活動に参加しクラブの活動を少しずつ知ることになって、先輩からも随分と良くしていただきクラブ内外にも友人は増えてきました。が、こ

のような立場になって、坂口ガバナーからは沢山の情報を頂き、勉強をさせて頂いた今、これまで漫然と過ごしてきた20年間、霧の中にいたようでしたがロータリーを少しずつ理解できるようになってきました。

そこで私は改めて実感しました。ロータリークラブの会員である以上、ロータリーを知ることです。クラブのメンバーだけで楽しくワイワイするのも悪くはないのですが、自分たちのクラブの存在意義が何なのかを知ったほうが、もっと楽しい。知ったことによって、これを地域の誰かに話したくなると思いました。たぶんそれこそが会員増強の第1歩に繋がるのではないのでしょうか。当然、この場にも同じ思いの方はおられると思います。クラブの仲間とは、もっと人生を語り合いたいですね。

自分たちが何のために何をしているのか、どんな考えのもとで行動しているのか。更にはどうしたら有意義な人生を送れるのか。一人では出来なくても、皆となら出来ることそんなことを話し合えて、共有できる仲間なんだと思います。そこにロータリーの理念を取り入れて行けば、もっと明確に楽しくなると思います。

クラブ活性化は地域の活性化、地域の皆さんを巻き込んでいけたらいいと思います。

もっと若い時に気づきたかったと、つくづく思います。また、折角入会したのに、ロータリーのそれを知らずに退会していく方は、もっと気のどくだと思いました。

私は、何かを始めるとき「温故知新」という言葉を思い出します。(最近、セミナーなどでこの言葉をよく耳にします) ということで、次は「ロータリーの始まりのエピソード」を聞いてください。

我々は職業人です。まずは事業を活性化して稼がねばなりません。でも儲ければ何をしてもいいわけではありません。1905年の出来事。皆さんよくご存じのお話ですが、アメリカ、シカゴの混沌とした資本主義の社会で、心の安らぎを求めたポール・ハリスが4人で立ち上げた社交クラブがロータリークラブの誕生です。私はその後もポール・ハリスが一生をかけてロータリーを育てたのかと思っていましたが、実はかなりの紆余曲折があって、楽しいだけでも良かったクラブが大勢の会員の色々な意見で、あるべき姿を求め変化していったようです。

1910年、ロータリー最初の社会奉仕活動として有名なシカゴに公衆トイレが出来たお話はご存じでしょうか。ここで注目なのは、ロータリアンが資金を出しあって出来たものではなく、ロータリークラブが提唱し反対する団体を説得し、市民運動を高かめて、その結果行政、企業や市民の募金で完成したそうです。

「入って学び、出でて奉仕せよ」ロータリーの理念を学び、社会に出て奉仕するという意味です。それから13年後の、1923年には、経営学スクールを主宰していた会員のアーサー・フレデリック・シェルドンが「最もよく奉仕をするもの、最も多く報われる」の言葉を提唱しました。これが職業奉仕の原点と言われています。もう一つの標語「超我の奉仕」と共にロータリーでは2大標語になっています。

混沌とした時代ですからロータリーの理念に賛同する人たちが集まり次々とクラブが結成されたことも理解できます。

続いて我々が例会の度に唱和する4つのテストですが、こんな訳もあります。

1. 嘘、偽りがいいのかどうか
2. すべての取引先に対して公平かどうか
3. 信用を高め、取引先を増やすかどうか
4. すべての取引先に利益をもたらすかどうか

この「4つのテスト」は、ハーバート・テイラーが1929年世界恐慌のころ、倒産の危機にある会社を再建するために社員の賛同を得て、「働く上での信条」として作りしました。毎朝の朝礼で、全社員が唱和し努めました。そして見事に会社は復活して見せたのです。普段耳にしている「4つのテスト」ですが、言葉が優しく、はじめるころ私は、クラブの皆と仲良くするための教えかと思っていました、しかしそうではなく職業に生かすべき教えだったのです。皆さんも、この訳で仕事に生かしてみませんか。こうして時代背景と共にロータリーの変化「進化」を振り返ると面白いと思いませんか。

この時代のお話は、結構ドラマティックです。(先日の9月14日に5年未満研修セミナーがありまして、そんな歴史や理念を学ぶ機会がありました) 色々な困難がある時、人々は団結して乗り越えていきます。それはチームとしても楽しく充実しています。「では現在のロータリーの魅力はどうなんだろう」ということです。

世界の200以上の国や地域に36,632のクラブがあり、1,171,195人の会員がいます。言葉も違えば、習慣、宗教も違う、価値観も違うことでしょう。クラブの中でさえも価値観の違いはあると思います。簡単に一つになるのは難しいと思います。だからこそロータリーの哲学が必要であり、共通する価値観を持ちたいものです。地域に根差したクラブの目的は、その地域をより良くしたいと思い、各自の職業を地域のために役立て、地域の皆さんを巻き込んで奉仕活動に取り組んで、誰もが幸福になれる社会を目指すことだと思います。だから、地域の有力メンバーが集まっているのです。その輪が広がって、やがて世界平和につながって行くのだと思います。

今年度のメッセージは「良いことのために手を取り合おう」です。良いことのために手を取り合おうというメッセージ、どこかで聞いた「ウイ・サーブ」ではありませんか？ロータリーも随分と変化したように思えます。昔は単年度制の奉仕活動でしたが、今では3イヤーズ・ターゲットが推奨され、変わってきましたからこれも進化の過程なのでしょう。

ロータリーのルールも時代と共に変化してゆきます。ただ、そのルールは私たちが作るべきものです。誰かに押し付けられたルールや指示された奉仕活動は好まないと思います。疑問や必要性を感じたら規定審議会に上程するくらいの考えで行きましょう。そうは言っても巨大な組織ですから、確かに一定のルールは必要です。しかし、ロータリーのために私たちが居るのではなく、私たちのためにロータリーはあるのですから自主的に活動に取り組んだらいいと思い

ます。

次年度からこの地区は、9つのグループになります。ガバナー補佐は少数のクラブを丁寧にサポートすることを求められています。第4グループは東と西に分かれ、それぞれ活動して行くことになりました。私は何度も会長幹事会を経験してきた身として、なんとも寂しい限りですが、活性化を実現するための実験でもあるようです。第4グループ・8クラブで行われるIMも最後になるかも知れません。今年度担当の岡部クラブは、皆さんと共に有意義な1日を作りたいと考えております。その一つの事業として能登半島復興をテーマに上げたいと思っております。

そこで少し前になりますが、輪島ロータリークラブさんに訪問してまいりました。このご縁は、岡部クラブの一人が復興事業に参加したことから始まりました。彼は現地に赴き、仮設住宅を建設していました。そこで輪島ロータリークラブと知り合い、例会にも何度か参加して親睦を深めてきたようです。参加者を募り、まずは6人のメンバーを組んで、前夜の新幹線で金沢まで行き、翌朝レンタカーでひたすら荒れた高速道路を走って約2時間半かけて輪島に到着しました。近づけば近づく程、その惨状は酷いものでした。山の斜面は崩れ、道路は復旧作業で交差通行の箇所がきりもなくあって、家の屋根はブルーシートが被さり、なかなか手が付けられないようです。

輪島クラブは現在29名の会員が在籍していますが、半分は金沢で避難生活をされているそうです。例会では集まれるメンバーだけで「とにかく例会だけでも、楽しくやりましょう」といった感じでした。災害にあった能登半島のクラブは、それを理由に無くしてはいけないと、日本ロータリーからも、第2610地区からも大きな支援がされているとのことでした。しかし、例会の進む中である会員さんがお話しているとき、通常の報告をされているのですが、とても痛々しく感じられました。恐らくは他の明るく振舞っている会員さんも心の内側は同じなのではないでしょうか。無理ありません。あれだけの被害の当事者なのですから。私たちに適切な言葉など見つけようがありませんでした。それでも何とか言葉を振り絞って「この事実を風化させないよう、協力していきましょう」「小さいかも知れませんが、寄り添うことでなれる力もあると思います」と伝えてきました。ただ、つらい思いを抱えた方々の中へ、どうかかわって行けば良いのか、実際どこまでできるかわかりません。

日本中、世界中でも困っている人は沢山います。そして自分の住む地域にも。それでも今回、これを目標に掲げ、皆さんのご賛同で何とか復興の力になりたいと考えております。

来年の2月21日。第4グループIM。是非、ご協力をお願い申し上げます。沢山の事を伝えたくて、話がまとまりませんが、最後に皆野・長瀬ロータリークラブの皆様の益々のご繁栄を祈念いたしましてこれで終わります。ありがとうございました。

